

歩みの備忘録

創刊号から5年、お陰様で「事務所便り」の三百号です。誠にありがとうございます。

正直に言って何を書こうか悩み、何とか、ようやくか、号を重ねてまいりました。過去のタイトルを振り返って、その時々時勢が垣間見れます。歩みの備忘録でしょうか。

「地域から明るい未来を作る

ろう」そのため、日々膨大なマスコミ情報に押し流され続ける私たちは、いつの時代でも翻弄され、一方の価値観に影響され易いのです。

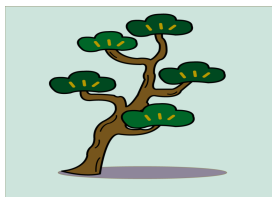
私たちの先人はこれまで大きな犠牲を払い、今日の社会を築いてきました。

私たちは悠久に繋がる次世代に、より良い社会を引き継ぐため、生きる役割があると思っています。

日々翻弄される多数が常に正しいとは限りません。「便り」は個人の見方や考えを提示して来たもので、皆様方の何かの、お役に立てれば幸いです。

関与先様に限らず、良くなっ

てほしい。幸
せになろう。
そのため私
たちは何が
できるか。し
なければなら
ないか。



おせっかいでしようが、勝手な提言をさせて頂き、誠に感謝しています。

5年前、全く先の見えな
い中でも社会には道理があり
ます。不条理もあります。
道理に反することに直遭遇し

よく考えれば、「安倍総
理」が未来を作っているの
ではない、委託しているの
でもなく、私たちが未来を
作っています。

原発事故を見て「誰もな
にも分かってない
状況」ということ
が分かりました。

官邸も東電も警察も。情
報が取れていない。それぞ
れの人達がそれぞれ情報を
持っているも、全体で何が
起きているのかということ
について誰も把握していな
いということです。

でも、選択は自由です。
その時、社会の一員として、
試されていると感じました。
それは与えられた「試練」
です。逃げるのも受けるのも
自由。正直「利得」は一切考
えにありませんでした。見え
ざる手といましようか、火
中の栗「困難」を覚悟の上で
選択したものです。

税務当局と真正面に対峙出
来ても、まだまだ地域社会の
進歩発展に少しでも役立って
いるとは、決していえる状態

もっと深刻なことは、統
治システムはあるけれども、
全体を把握する人がいない
状態であったことです。

そういう状況は近隣諸国
にとつてチャンスです。

未来は私たちが作る

未来を自分で決める
ことです。

大きな敵が目の前にいるわ
けでもなく、結局全て自分
達の行動にかかって来ます。
ですから、私たちも元氣
と積極的、自分次第のチャ
ンスです。

未来は自分達が作るんだ、

ではありません。
これまで年月を重ねて、不
振会社の一助に程遠い状態で
あります。
意識改革が進まず何も変わら
ぬ事務屋であります。

今後も改革に一同微力を積
み重ねる所存であります。
どんな注文やご意見でも、担
当を含め忌憚の無い所を自由
に、お聞かせて頂ければ幸い
です。
よろしくお願い致します。
ありがとうございます。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2013年4月30日(火) NO 300

地域から明るい未来を作ろう